



Blanca de Ulibarri

プロジェクトマネジャー



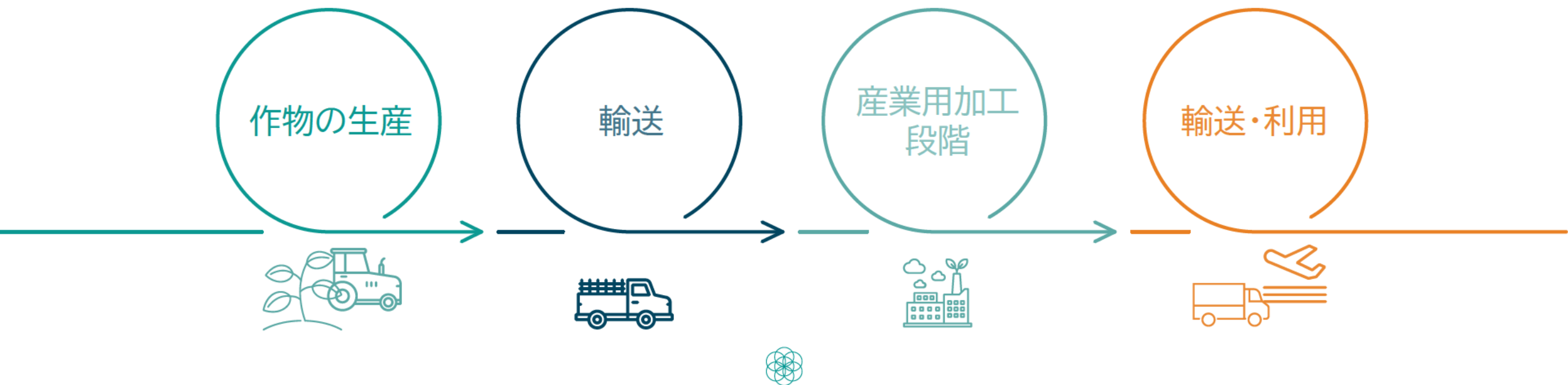
現在の取り組み

RSB Japan Fit Standard

RSB Japan FIT Standardは、RSB Japan認証原料の各バッチにGHG原単位が関連付けられるように、サプライチェーンに沿ったGHG排出量の算定をすでに要求している。

バイオマス生産者・トレーダーは、発生地点(Point of Origin)から納入地点までのバイオマスの収集・輸送・加工に関わるサプライチェーンに沿ったGHG排出量を算定しなければならない。

算定方法は、[RSB GHG calculation Methodology \[RSB-STD-01-003-01\]](#)に記載されている方法論に従うものとする。

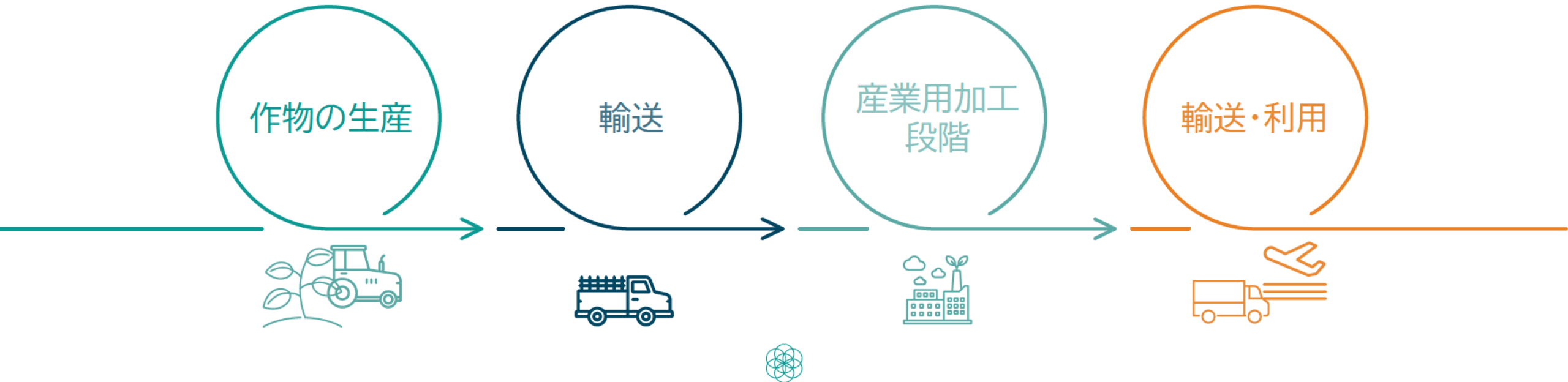


現在の取り組み

RSB Japan Fit Standard

現在、RSB Japan FIT Standardの適用範囲に発電は含まれておらず、バイオマスの生産と取引のみが対象となっている。現時点では、RSBは認証バイオマス*について具体的なGHG削減を要求していない。

* 日本の規制により発電の認証が必要になった場合、RSBは 経済産業省が定めた要件およびRSBの原則と基準に基づいてベースラインを定め、目標を設定する。



ライフサイクルGHG算定方法論

	RSB GHG方法論	FIT制度の新ルール	FIT制度の新ルールに沿っているか
1 温室効果ガスの種類とGWP	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CO2: 1 ✓ CH4: 24 ✓ N2O: 298 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CO2: 1 ✓ CH4: 25 ✓ N2O: 298 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 部分的に沿っている。CH4のGWPは異なる。
2 バウンダリ/スコープ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ LUC、栽培、加工、輸送、発電を含む炭素ストック変化。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ LUC、栽培、加工、輸送、発電を含む炭素ストック変化。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 沿っている。RSBの方法論では、栽培には、施肥による窒素のロス(例:揮発、浸出)からの排出も含まれる。
3 施設建設に伴う排出	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 含まない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 含まない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 沿っている
4 CO2回収・貯留	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エビデンスがあれば、排出削減とみなすことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 回避できる場合は、排出削減とみなすことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 沿っている

ライフサイクルGHG算定方法論

5 CO2回収・貯留

RSB GHG方法論

- ✓ **生物起源CO2**:事業者は、生物起源排ガスを生成するユニットが、回収された温室効果ガスを他の目的（自主的開示、義務的計算など）のために、LCAのクレジットとして考慮しないことの証拠を提供しなければならない。

* 審議・承認中(RSB *Advanced Fuel Standard*のPtX修正)。

FIT制度の新ルール

- ✓ **生物起源CO2**:回避できる場合は排出削減とみなすことができる。

FIT制度の新ルールに沿っているか

- ✓ 定かではない。

ライフサイクルGHG算定方法論

	RSB GHG方法論	FIT制度の新ルール	FIT制度の新ルールに沿っているか
6 輸送に伴う排出	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 片道アプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 往復アプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>沿っていないが、適合は容易。</u>
7 輸送段階でのロス・充填・混合	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ロスは含まれる。充填・混合および/または貯蔵段階で使用される電力や熱も輸送段階に含まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不明 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不明
8 発電	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイオマス燃料の使用によるCO₂排出量はゼロとみなされる。 ✓ CH₄とN₂Oの排出量は含むものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイオマス燃料の使用によるCO₂排出量はゼロとみなされる。 ✓ CH₄とN₂Oの排出量は含むものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 沿っている。

ライフサイクルGHG算定方法論

9 アロケーション

RSB GHG方法論

- ✓ バイオ燃料はエネルギーベース (LHV)、バイオマテリアルは経済価値ベース。
- ✓ RSBは現在、GHG負荷を電気と熱に配分する方法として、EU REDで使用されているものと同じExergyアプローチをRSB Globalで検討中。

FIT制度の新ルール

- ✓ 不明

FIT制度の新ルールに沿っているか

- ✓ 不明

8 GHG削減要求・目標

- ✓ RSB Japan FITについては、未設定。

- ✓ 2022年度から2029年度に認定される事業については50%。
- ✓ 2030年度以降に使用する燃料については、70%。

- ✓ 沿っていない。ただし、日本版FIT制度(経済産業省)で策定され次第、RSBは目標を含める予定。

管理の連鎖



認証機関

- 認証機関は、国際規格 ISO/IEC 17065 のすべての要件に準拠しなければなりません。
- 監査を実施する認証機関のオフィスは、ISO 17065（あるいは正当に同等であるもの）、および個別計算によるGHG排出量の監査を実施する場合にはISO 14065（あるいは正当に同等であるもの）の認定を受けなければなりません。
- 認証機関は、国際規格 ISO 14041 および ISO 14064-3 に沿って、温室効果ガス計算の評価を実施しなければなりません。
- 認証機関は、RSB Global, RSB EU RED および RSB CORSIAに基づく GHG 排出量計算のトレーニングを受けています。

ポジティブ・インパクトを創出するという野心を支える総合的アプローチ



原則1
合法性



原則2
計画、モニタリング、
改善



原則3
温室効果ガス排出



原則4
人権および労働者の
権利



原則5
農村・社会の開発



原則6
地域の食料安全保障



原則7
生態系保全



原則8
土壌



原則9
水



原則10
大気の質



原則11
投入物、廃棄物の
管理



原則12
土地の権利

○ 法律

○ 管理

○ 環境

○ 社会



質疑応答

